

読書の楽しみをすべての子どもたちに 展示B：日本のバリアフリー図書の歩み



開催期間：平成17年7月21日（木）～9月4日（日）
 場 所：国立国会図書館 国際子ども図書館 3階ホール
 時 間：9：30～17：00
 休 館 日：月曜日、国民の祝日・休日 資料整理休館日：毎月第3水曜日
 主 催：国立国会図書館国際子ども図書館・日本国際児童図書評議会（JBBY）

年	事項
1876（明治9）	東京に楽善会訓盲院設立（開院は1880年）
1878（明治11）	京都に盲啞院開設 この頃凸文字教材が作成される
1890（明治23）	日本訓盲点字の翻案完成
1903（明治36）	点字雑誌『むつぼしのひかり』創刊
1916（大正5）	東京市本郷図書館に点字文庫開設 （中途失明者加藤梅吉が収集点訳した点字図書の寄託による）
1919（大正8）	新潟県立図書館に盲人閲覧室開設
1920（大正9）	新潟県柏崎市に県盲人協会による点字巡回文庫開設 （1926年に貸出点字図書館となる）
1921（大正10）	文京盲学校（東京）に点字図書館開設
1922（大正11）	『点字大阪毎日』創刊
1927（昭和2）	国際図書館協会連盟（以下IFLA）創設
1928（昭和3）	日本ライトハウスの創始者岩橋武夫が、自宅（大阪）を開放し点字図書の無料貸出事業を開始
1929（昭和4）	文部省が初の盲学校用点字教科書『初等部用国語読本』発行（点図の挿絵入り）
1932（昭和7）	IFLAに病院図書館の小委員会創設
1933（昭和8）	日本図書館協会（以下JLA）全国図書館大会で「点字図書館及び盲人閲覧者の取扱い」を討議、点字図書の収集、閲覧に取り組むことを決議
1940（昭和15）	本間一夫が日本盲人図書館（現日本点字図書館 東京）を開設、閲覧と貸出を開始
1948（昭和23）	世界人権宣言公布
1949（昭和24）	身体障害者福祉法公布（点字図書館を更生援護施設として規定）
1950（昭和25）	図書館法公布
1951（昭和26）	山形県立図書館で点字図書の盲学校への貸出を開始
1953（昭和28）	学校図書館法公布 国際児童図書評議会（以下IBBY）設立
1954（昭和29）	JLA全国図書館大会で療養所などの読書施設に対する援助について討議 文部省学校図書館審議会設置 文部省が義務教育課程の点字教科書の無償配布を開始（高等部は1956年から）
1956（昭和31）	徳島県立図書館で自動車を利用して県下各地の盲人へサービスを開始 翌1957年、声の図書館発足
1958（昭和33）	日本点字図書館に声のライブラリー発足
1961（昭和36）	郵便法改正（盲人用郵便物無料化）
1963（昭和38）	厚生省が委託点字児童図書制作貸出事業を開始
1965（昭和40）	この頃、盲学校教育の中で点字絵本やさわる絵本などの試みが始まる
1968（昭和43）	山梨ライトハウス点字図書館が拡大写本作り開始
1969（昭和44）	視覚障害者団体が東京都立日比谷図書館や国立国会図書館（以下NDL）に、利用についての要求を提出
1970（昭和45）	東京都立日比谷図書館が視覚障害者へのサービスを開始 （読書室設置、録音吹き込み、対面朗読） JLAが『市民の図書館』発行 著作権法第37条「公表された著作物は点字により複製することができる」等を新たに規定 東京にむつき会設立（加藤千代子代表） 小林静江が自宅（北海道小樽市）で開いていた文庫を障害児用とする
1971（昭和46）	町田市立町田図書館（東京都）が身体障害者用バスを走らせ、重度障害者授産施設に図書の貸出を開始 岡山市立図書館（岡山県）で身体障害者に家庭配本サービスを開始 練馬区立石神井図書館（東京都）で点字図書及びテープ図書の貸出を開始 視覚障害者読書権保障協議会がJLA全国図書館大会で「図書館協会会員に訴える - 視覚障害者の読書環境整備を」とアピール
1972（昭和47）	国際図書年 ユネスコ公共図書館宣言（改訂）に「障害をもった読者」という項目を新設 大阪府立図書館（現大阪府立中之島図書館）で身体障害者への郵送貸出を開始
1973（昭和48）	千葉県船橋市にフェルト会（拡大写本の会）設立 北海道小樽市に入院児対象のふきのとう文庫設立
1974（昭和49）	近畿点字図書館研究協議会発足

	むつき会がさわる絵本を事業化、品川区立品川図書館（東京都）が郵送などの貸出業務を引き受ける
	昭島市民図書館（東京都）が病院入院患者への貸出を開始
	大阪府立夕陽丘図書館で拡大読書機の設置、対面朗読、来館不可能な人への郵送貸出を開始
	JLA全国図書館大会で、身体障害者への図書館サービス分科会を設置 「身障児への図書郵送料無料化についての要望書」を全体会で承認
	日本国際児童図書評議会（以下JBBY）設立
1975（昭和50）	日本文芸著作権保護同盟から公共図書館の録音サービスが「著作権侵害」と指摘される NDLが学術文献録音サービス開始
	国際連合（以下国連）総会で障害者の権利宣言を採択
	ふきのとう文庫が布の絵本の研究・制作開始
1976（昭和51）	文部省が公共図書館に対し点字図書等購入費補助事業を開始 身体障害者向け書籍小包郵便物が半額になる JLAが身体障害者等に対する図書館サービスの全国的な実態調査を実施
	東京都公立図書館長協議会が東京の障害者サービス実態調査を実施
	むつき会がにおう絵本の製作を開始（全国の盲学校に寄贈）
	東京都町田市が身体障害者を図書館まで送迎するバスを運行
1977（昭和52）	日本病院図書館研究会が国立大蔵病院小児病棟（東京）で図書館ボランティア活動を開始 図書館問題研究会全国大会で、拡大写本、大型活字図書を出版させる運動の必要性を確認
	大阪公共図書館協会が大阪の公共図書館における障害者サービス実態調査を実施
	偕成社が『指で見る』（障害者を理解する子どもの本第1冊目）を発行
	フェルト会が墨田区立あずま図書館（東京都）に拡大写本の寄贈を開始
1978（昭和53）	どらねこ工房が弱視者用大型活字本を発行 JLAで大型活字本への取り組みと著作権問題、図書館員を希望する障害者について討議 JLAが障害者サービス委員会設置
	大田区立大森南図書館（東京都）が病院サービス（病室巡回貸出等）を開始
1979（昭和54）	江東区立城東図書館（東京都）でろう学校幼稚部生徒に対して絵本の読み聞かせ（口話による）を開始 布の絵本研究連絡会（事務局偕成社）設立 「世界の布の絵本・さわる絵本展」東京等で開催（朝日新聞主催、偕成社協力） その後「ふれあい広場」として1986年まで毎年開催
	偕成社が隆起印刷されたさわる絵本『これ、なあに？』を発行
1980（昭和55）	埼玉福祉会が図書館へ大活字本のセット販売を開始 図書館問題研究会が障害者サービス委員会設置
	偕成社が障害のある子どもたちが描いた絵本『ボスがきた』を発行
1981（昭和56）	国際障害者年 テーマは「完全参加と平等」 日本盲人社会福祉施設協議会が「通常の印刷物を読むことのできない利用者に対しサービスを行っている点字、公共、大学、学校等の図書館」に対し正式に相互貸借を開始 大阪に視覚障害児のためのわんぱく文庫開設（福山恭子代表） 東京に障害児のための第2すずらん文庫開設（渡辺順子代表） ミュンヘン国際青少年図書館で「障害児のための図書展」開催 日本の布の絵本やさわる絵本を展示 IBBYが世界各国の障害児図書リストを作成開始
	どらねこ工房が大活字英語辞典『研究社・マイ英和辞典』を発行
1982（昭和57）	財団法人ふきのとう子ども図書館開設 NDLが『点字図書・録音図書全国総合目録』を創刊
	品川区立図書館（東京都）が入院児童に対する病院サービスを開始
	さわる絵本連絡協議会大阪結成
1983（昭和58）	子どものための学習点字絵本『テルミ』創刊（日本児童教育振興財団） JLA障害者サービス委員会に聴覚障害者のための図書館サービスを考えるワーキンググループ設置
1984（昭和59）	練馬区立関町図書館（東京都）で布の絵本の一般貸出を開始 岩田美津子が自宅（大阪）で、てんやく絵本の会岩田文庫開設
1980年代	姫路市立図書館（兵庫県）で少年刑務所へのサービス開始（自動車文庫による巡回サービス）
1985（昭和60）	東京都公立図書館長協議会『東公図録音図書・点訳図書・拡大写本総合目録1985』を発行 IBBY障害児図書資料センター設立（ノルウェー・オスロ）
1986（昭和61）	IBBY東京大会 近畿点字図書館研究協議会が製作資料の着手情報システムを発足
	IFLA東京大会
1987（昭和62）	大阪市内の図書館でてんやく絵本が一般開架される 点訳絵本・点訳データ入りFDの郵送料が無料となる
1988（昭和63）	日本IBMが点字情報ネットワークシステム「てんやく広場」開始

1989 (昭和64)	公共図書館で働く視覚障害職員の会(なごや会)発足 国連で児童の権利に関する条約採択 聴覚障害者用小包郵便物の郵送料が半額となる
1990 (平成2)	身体障害者福祉法改定(点字図書館を視聴覚障害者情報提供施設とする) 東京布の絵本連絡会発足
1991 (平成3)	岩田文庫がてんやく絵本ふれあい文庫(視覚障害者文化振興協会)となる 鳥根県松江市に障害児者をテーマとした図書を集めた風の会文庫設立(武田信子代表) 2003年から松江市近郊の学校・児童館等へのセット貸し出し開始
1992 (平成4)	文部省の委託を受け、拡大教材研究会が小学校の国語(2年以上)と算数(3年以上)の弱視児用教科書を発行(中学校は翌年から)
1993 (平成5)	障害者基本法公布
1994 (平成6)	心身障害者用書籍小包(一般図書や拡大写本等)の郵送料が半額となる 高齢者、障害者が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律(ハートビル法)公布
1995 (平成7)	障害者プランノーマライゼーション7ヵ年戦略策定
1996 (平成8)	大阪府立中央図書館でわんぱく文庫の点字図書の一般書庫設置、貸出開始
1997 (平成9)	読みやすい図書のためのIFLA指針提示 IFLA盲人図書館専門家会議で、デジタル録音システムの国際基準(デジフォーマット)決定 NDLホームページに『全国の点字図書・録音図書製作速報』掲載開始
2000 (平成12)	子ども読書年 NDLの図書館間貸出対象館に点字図書館を追加 国立国会図書館国際子ども図書館(以下ILCL)部分開館 2002年に全面開館
2001 (平成13)	マルチメディアデジーが作られ始める 文部科学省が図書館法第18条に基づく公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準を告示、障害者サービスを明記 インターネット版ないーぶネット「総合ないーぶネット」本格運用(全国視覚障害者情報提供施設協会) 子どもの読書活動の推進に関する法律公布
2002 (平成14)	「バリアフリー絵本展」開催 全国20箇所巡回(バリアフリー絵本展実行委員会主催) 文部科学省の子どもの読書活動の推進に関する基本的計画を受け、各自治体で推進活動始まる 『盲導犬アンドリューの一日』が多媒体出版される 新障害者プラン策定 愛育社がLLブック(やさしく読める図書)として『山頂にむかって』など2冊を発行
2003 (平成15)	NDL『点字図書・録音図書全国総合目録検索』をインターネットで公開 大阪府立中央図書館で「録音図書ネットワーク配信事業」開始 IBBY50周年記念展「世界のバリアフリー絵本展」全国巡回開始(JBBY・日本ユニセフ協会主催)
2004 (平成16)	JBBY内にIBBY障害児図書資料センター推薦図書選考会発足 デジー図書の配信システム「びぶりおネット」が、日本点字図書館、日本ライトハウス盲人情報文化センターにより開始 障害者用音訳資料作成の一括許諾システムが日本文芸家協会とJLAの合意により開始 拡大教科書の無償給与開始 内閣府がバリアフリー化推進要綱を決定 白山市立松任図書館(石川県)で、手とお話の会(ろう成人の手話による読み聞かせ)を開始 地域の小・中学校に学ぶ子どもたちに点字教科書無償給与開始 JLA全国図書館大会でディスレクシア、学習障害について討議 発達障害者支援法公布
2005 (平成17)	ILCLで「読書の楽しみをすべての子どもたちに」(バリアフリー絵本展とシンポジウム)開催

協力：西脇智子(実践女子短期大学助教授), 山内薫(東京都墨田区立緑図書館)